

平成 31 年度の「高等学校生徒入学定員計画」について

「神奈川県公立高等学校設置者会議」資料より

平成 31 年度の定員計画の方式

- 平成 22 年度から 3 年間は、公立中学校卒業予定者の 6 割を全日制公立高等学校の入学定員としてきたが、平成 25 年度定員計画策定時に、それまでの公立間の定員協議の経緯を勘案し、公私各々が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式に改め、策定してきた。
- 平成 31 年度も、引き続きこの方式により策定する。

実現を目指す定員目標設定の考え方

- 公立の目標設定にあたっては、公立中学校卒業予定者の動向に対応できるよう定員枠を確保し、全日制進学率の向上に寄与するものとする。

その他

- 全日制公立高等学校定員計画の策定にあたって、県・三市教育委員会は公私が協調して全日制の進学率を向上させることを念頭に私立高校の配置状況等を十分に考慮する。

計画

- 公立：42,500 人程度を入学定員の目標とする。
- 私学：14,600 人程度を入学定員の目標とする。
(公立中学校卒業予定者数 68,727 人)

公立中学校卒業者の進路状況別進学率

進学年度	公立中学卒業者数		全日制進学率	県内公立		県内私立		県外等		定時制		通信制	
				進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率
H27	県全体	69,744	90.2%	43,079	61.8%	13,714	19.7%	6,093	8.7%	2,249	3.2%	2,522	3.6%
	川崎市	9,358	90.5%	5,124	54.8%	953	10.2%	2,389	25.5%	329	3.5%	269	2.9%
H28	県全体	70,397	90.9%	43,528	61.8%	14,521	20.6%	5,965	8.5%	2,062	2.9%	2,440	3.5%
	川崎市	9,792	91.7%	5,366	54.8%	1,290	13.2%	2,327	23.8%	287	2.9%	269	2.7%
H29	県全体	69,996	90.7%	43,487	62.1%	14,146	20.2%	5,851	8.4%	2,028	2.9%	2,546	3.6%
	川崎市	9,770	90.3%	5,393	55.2%	1,092	11.2%	2,334	23.9%	344	3.5%	344	3.5%
H30	県全体	69,140	90.9%	42,824	61.9%	14,435	20.9%	5,590	8.1%	1,780	2.6%	2,717	3.9%
	川崎市	9,881	90.8%	5,438	55.0%	1,337	13.5%	2,172	22.0%	274	2.8%	384	3.9%
H31	県全体	68,742	90.8%	42,347	61.6%	14,497	21.1%	5,589	8.1%	1,516	2.2%	3,034	4.4%
	川崎市	9,709	90.8%	5,350	55.1%	1,334	13.7%	2,081	21.4%	224	2.3%	429	4.4%

(神奈川県公立高等学校協議会資料より)

平成31年度 入学者選抜 志願状況（定時制の課程）

	学校名	学科・部名	募集定員	共通選抜			定通分割選抜			二次募集			欠員
				募集人員	受検者数	受検倍率	募集人員	受検者数	受検倍率	募集人員	受検者数	受検倍率	
県立普通科	横浜翠嵐	普通科	140	112	40	0.36	100	21	0.21	91	0	0.00	91
	希望ヶ丘	普通科	105	84	35	0.42	70	8	0.11	68	2	0.03	68
	横須賀	普通科	70	56	9	0.16	61	17	0.28	50	1	0.02	49
	追浜	普通科	70	56	12	0.21	58	7	0.12	56	2	0.04	54
	茅ヶ崎	普通科	70	56	13	0.23	57	6	0.11	54	0	0.00	54
	伊勢原	普通科	70	56	13	0.23	57	4	0.07	54	1	0.02	53
	津久井	普通科	70	56	6	0.11	64	3	0.05	62	0	0.00	62
県立単位制普通科	横浜明朋	普通科午前部	140	140	121	0.86				20	12	0.60	8
		普通科午後部	140	140	81	0.58				59	12	0.20	47
	川崎	普通科	70	70	67	0.96				3	3	1.00	0
	湘南	普通科	105	84	34	0.40	71	8	0.11	67	1	0.01	66
	小田原	普通科	70	56	12	0.21	58	1	0.02	58	0	0.00	58
	厚木清南	普通科	140	140	83	0.59				57	10	0.18	47
	相模向陽館	普通科午前部	130	130	143	1.10				—	—	—	0
	普通科午後部	130	130	66	0.51				52	8	0.15	45	
県立総合単位制	磯子工業	総合学科	70	56	13	0.23	57	6	0.11	56	0	0.00	56
	向の岡工業	総合学科	70	56	12	0.21	58	3	0.05	56	1	0.02	55
	平塚商業	総合学科	70	56	19	0.34	51	10	0.20	48	0	0.00	48
	秦野総合	総合学科	70	56	8	0.14	62	3	0.05	60	0	0.00	60
	神奈川総合産業	総合学科	105	84	63	0.75	42	24	0.57	28	0	0.00	28
県立専門学科	神奈川工業	機械科	70	56	20	0.36	50	7	0.14	44	0	0.00	44
		建設科	35	28	10	0.36	25	1	0.04	24	0	0.00	24
		電気科	35	28	11	0.39	24	6	0.25	21	0	0.00	21
	小田原城北工業	機械科・電気科	35	28	5	0.18	30	2	0.07	28	0	0.00	28
横浜市立	戸塚	普通科	140	112	16	0.14	124	12	0.10	117	5	0.04	112
	横浜総合	総合学科Ⅰ部	144	144	171	1.19				—	—	—	0
		総合学科Ⅱ部	108	108	127	1.18				—	—	—	0
		総合学科Ⅲ部	108	108	57	0.53				24	2	0.08	22
横須賀市立	横須賀総合	総合学科	70	56	70	1.25	14	19	1.36	—	—	—	0
川崎市立	川崎	普通科昼間部	70	70	78	1.11				—	—	—	0
		普通科夜間部	70	70	14	0.20				49	0	0.00	49
	川崎総合科学	クリエイト工学科	35	28	13	0.46	22	7	0.32	20	0	0.00	20
		商業科	35	28	6	0.21	29	7	0.24	29	0	0.00	29
	橘	普通科	70	56	23	0.41	47	16	0.34	44	0	0.00	44
高津	普通科	105	84	35	0.42	71	20	0.28	61	2	0.03	60	

平塚商業高校はR2年度から単位制普通科の高浜高校と校名を変更

「平成 31 年度公立高等学校定時制課程入学理由等のアンケート調査」より

神奈川県教育委員会が定時制教育の充実・改善等に役立てるため、定時制課程入学者に実施している調査データから、川崎市立高等学校定時制課程の部分を使用。

川崎市立高等学校定時制課程（川崎、川崎総合科学、橘、高津）
平成 31 年度入学者より 170 名の回答（令和元年 5 月実施）

Q 1. 現在仕事をしていますか。

していない：約 62%
している：約 37%

Q 2. Q 1 で「している」と答えた方は、どのような働き方ですか。

正規社員、派遣社員：約 3%
アルバイト：約 87%
自家営業（手伝いを含む）：約 5%

Q 3. どのような受検方法で入学しましたか。

共通選抜：約 84%
定通分割選抜：約 7%
二次募集：約 2%

Q 4. 定時制課程を選んだ理由は何ですか。（複数可）

〈上位のもの〉

働きながら学ぶ事ができるため：約 67%
1 日の授業時間が短い：約 52%
社会に出るためには、高校での学習が必要だと思ったため：約 52%
4 年間でじっくり学ぶことができるため：約 43%
定時制の雰囲気自分に合っているため：約 37%
定時制はより丁寧に面倒をみてくれると思ったため：約 34%
公立全日制への進学を希望していたが、学力的に難しかったため：約 30%

Q 5. 中学校 3 年生の 10 月頃の進路希望調査で、どのような進路を第 1 希望にしていますか。

〈上位のもの〉

公立定時制高校（夜間）：約 29%
公立定時制高校（昼間）：約 27%
公立全日制高校：約 19%

Q 6. 中学校時代の通学状況はどのようなものでしたか。

- 休むことなく、毎日欠かさず通った : 約 12%
風邪などで少しやすんだが、ほとんど毎日通った : 約 29%
休みがちだった : 約 58%

Q 7. 学習面で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 基礎から時間をかけて勉強したいので授業の内容をやさしくしてほしい : 約 59%

Q 8. 特別活動で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 学校行事を充実してほしい : 約 49%

Q 9. 学校生活で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 進路指導を充実してほしい : 約 31%
学習指導を充実してほしい : 約 31%
部活動を充実してほしい : 約 24%

定時制課程のあり方及び出身中学校区分布

定時制課程のあり方について

- 定時制教育は、戦後、就業等のために全日制高校に進学できない青年に後期中等教育の機会を提供するものとして制度化され、高校教育の普及と教育の機会均等の理念を実現するうえで大きな役割を果たしてきた。
- しかし、社会経済状況の変化に伴い、近年においては、働きながら学ぶ勤労青年の数が減少する一方、定時制高校の生徒については、全日制課程からの進路変更等に伴う転入学・編入学者（中途退学経験者）、中学校までの不登校経験者など自立に困難を抱える者、過去に高等学校教育を受ける機会がなかった者など、様々な入学動機や学習歴をもつ者が多くなっており、制度発足当初とは著しく異なった様相を生じている。
- このような中で、生徒にとっての「通いやすさ」は距離的な要因だけでなく、時間帯も大きな要因である。明るい時間に下校できることも、生徒が「通いやすさ」を感じる上で大きなウエイトを占めるように変化している。
- 本市においては、平成 26 年度に設置した川崎高等学校定時制昼間部のニーズが高まっており、近年では不合格者を出さざるを得ない状況が見られる。
- また、学び直しや、特別な支援が必要な生徒への対応、優れた才能・個性を有する生徒への支援、外国につながる生徒数の増加による日本語指導の支援等、多様化する生徒のニーズに対応するため、昼間部の拡大が求められている。

平成 31 年度市立高等学校入学生徒 出身中学校区分布

出身 中学校区	学 校				
	川 崎		川 崎 総合科学	橘	高 津
	昼間部	夜間部			
川崎	32	15	5	1	0
幸	17	1	6	10	1
中原	7	0	4	5	0
高津	7	1	0	3	12
宮前	1	1	0	2	17
多摩	2	0	1	0	6
麻生	2	0	0	2	4
その他	2	3	5	3	5
合計	70	21	21	26	45

※その他：市外、私立学校等